

ASJ アクシデントレポート vol.2018-1

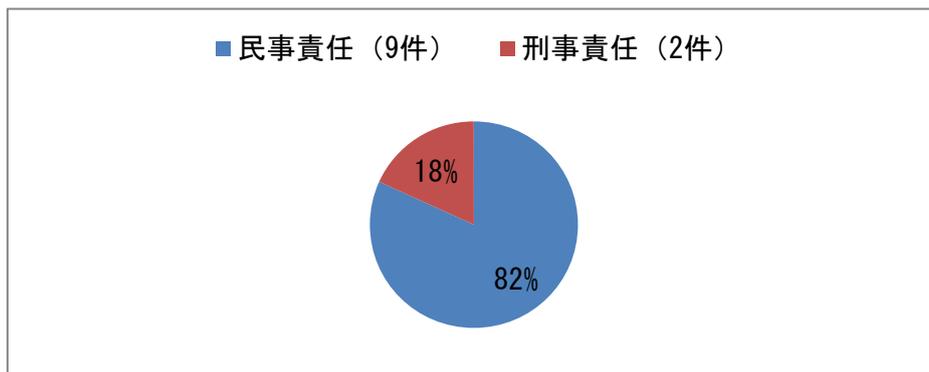
～裁判関連編～

一般社団法人 ATHLETE SAVE JAPAN (ASJ) では、今年1月下旬から、スポーツ中の事故で、民事の損害賠償責任や刑事責任が問われた報道を11件見つけ、ASJ アクシデントケースに集約してきました。

ASJが見つけた報道がすべてというわけではありませんが、以下その概要を報告します。

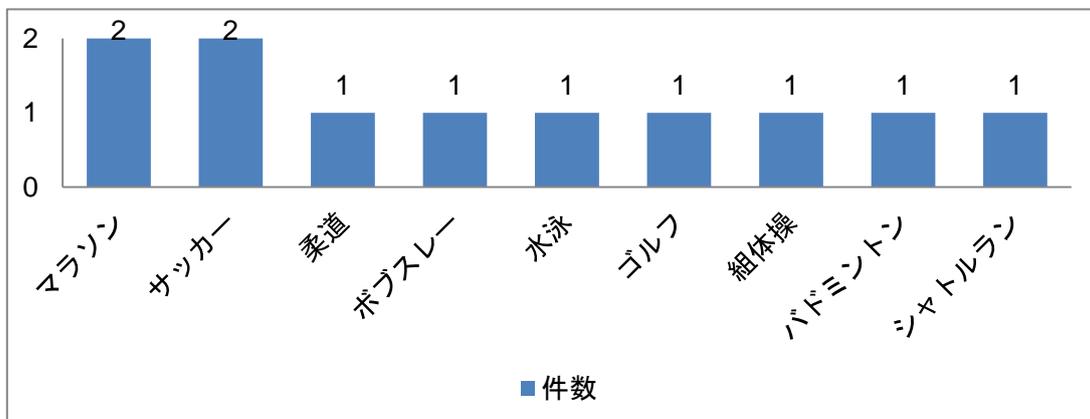
1. 問われた責任の内容

11件の事例で問われた責任の内訳は、民事の損害賠償責任が問われた事例が9件、刑事責任が問われた事例が2件でした。刑事責任が問われた事例は、プールで乳幼児が死亡した事例、転倒したハンドボールゴールに挟まれた小学生が死亡した事例で、いずれも監督者が「業務上過失致死罪」(刑法211条)に問われていました。



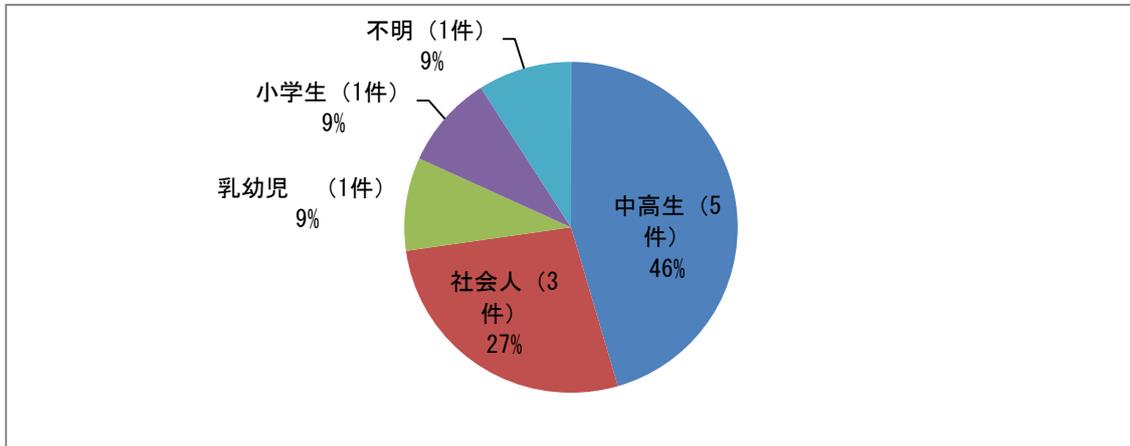
2. 競技

競技の内訳としては、突出して裁判事例が発生しやすいといえる競技はなく、様々な競技で、民事の損害賠償責任や刑事責任が問われていました。



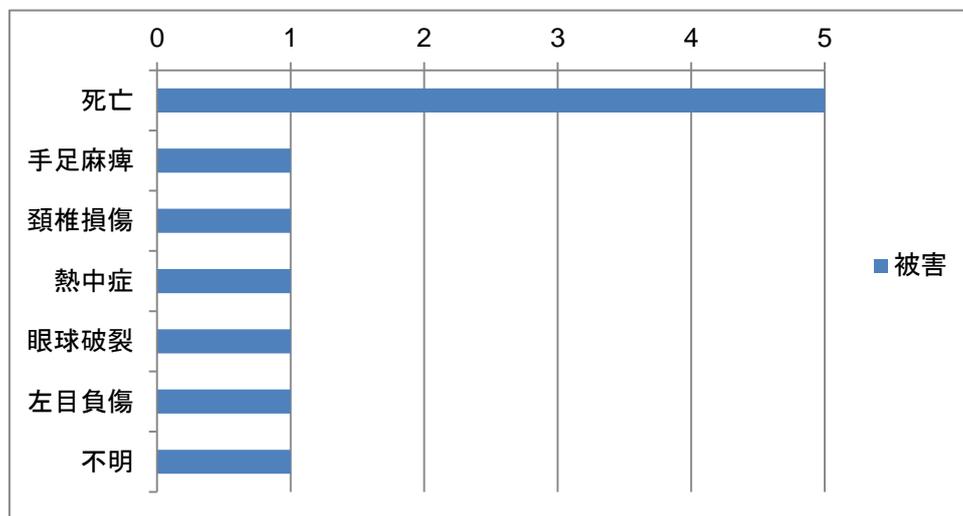
3. 被害者の属性

事故の被害者の属性は、中学生・高校生（5件-46%）の割合が最も多いことがわかりました。また、中高生と乳幼児、小学生を合わせると、件数は7件（74%）に達し、裁判にまで至る事例には、未成年の子どもが被害者になっている例が多いことが分かります。



4. 被害状況

民事の損害賠償責任や刑事責任が問われた事例の被害状況は、死亡事故が5件と最も多いことがわかります。その他の被害も、手足麻痺（1件）、頸椎損傷（1件）、眼球破裂（1件）など、非常に程度の重い後遺障害を負っています。後遺障害の程度が大きい事案は、紛争となりやすい傾向があるように窺われます。



スポーツ事故の被害者が裁判をすることには、大きな負担が伴うと思います。大きな後遺障害を負う重大事故や悲しい裁判事例が生じないように、改めて「スポーツの安全」を徹底し、事故予防に努めることが重要だと思います。

発行者 一般社団法人 ATHLETE SAVE JAPAN

2/2

詳細については、以下もご参照ください。

ASJ アクシデントケース Facebook ページ : https://www.facebook.com/ASJ_accident_case/

ASJ 公式ウェブサイト : <http://athlete-save.jp/category/case/>

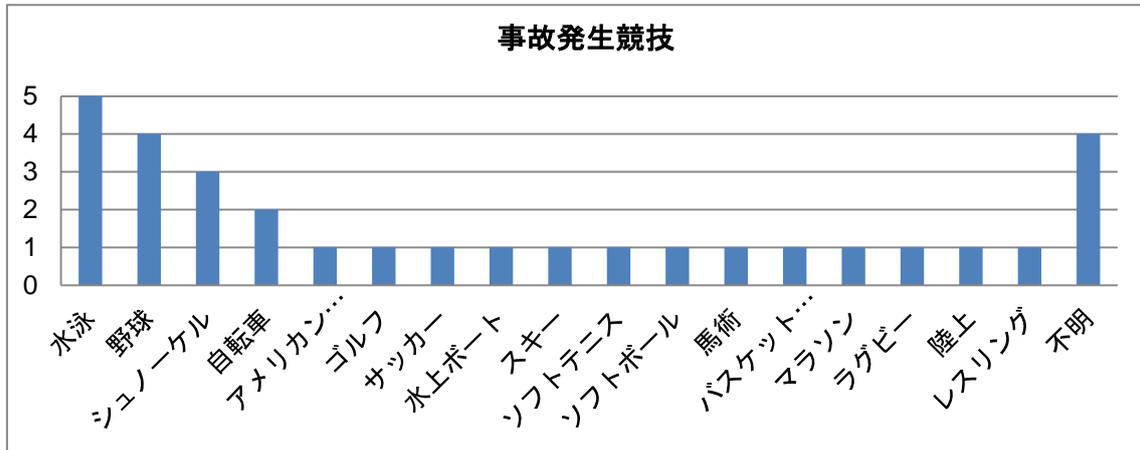
ASJ アクシデントレポート vol.2018-2

～事事故事例編～

一般社団法人 ATHLETE SAVE JAPAN (ASJ) では、今年1月下旬から、報道の中から、スポーツ中に発生した事事故事例を31件見つけ、ASJ アクシデントケースに集約してきました。ASJが見つけた報道がすべてというわけではありませんが、以下その概要を報告します。

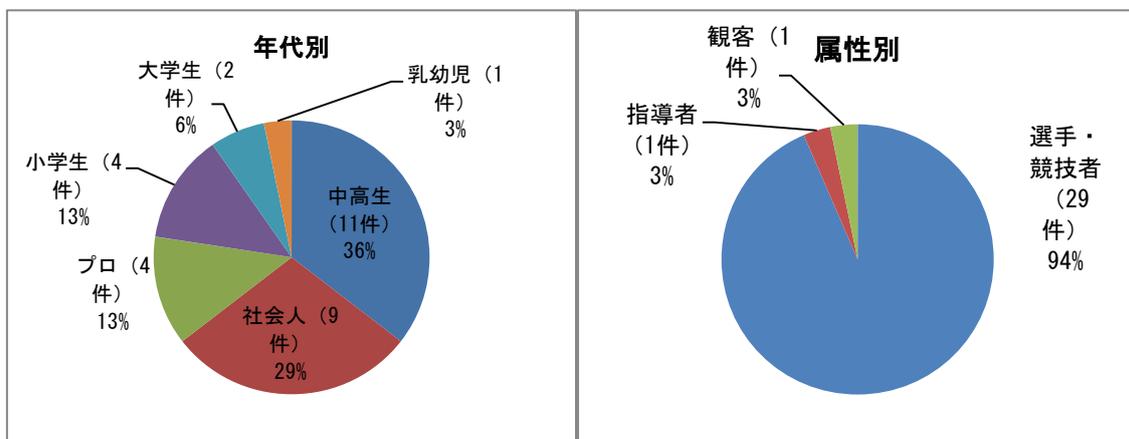
1. 事故発生競技

31件の事事故事例の競技のうち、水泳（海水浴を含む）・シュノーケル中の事故を合計すると8件と、水の事故の発生件数が高いことがわかります。また、野球中の事故も4件あり、比較的高い事故発生率を示しています。



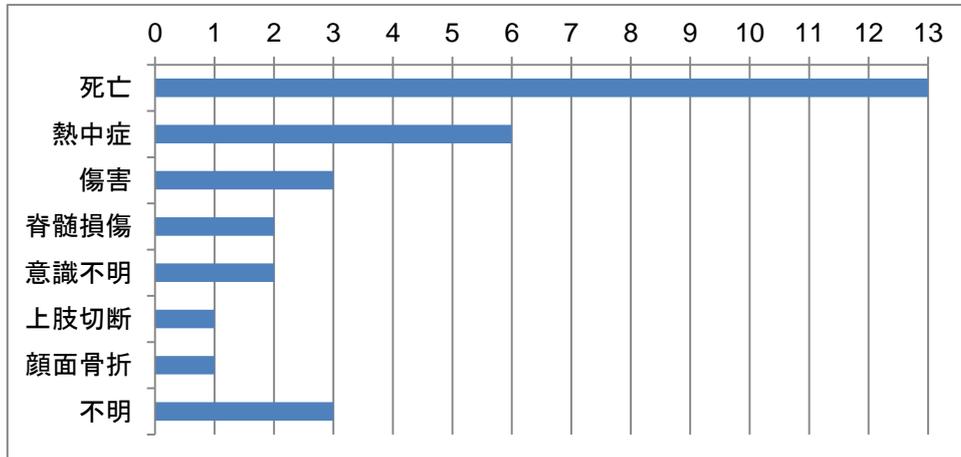
2. 被害者の年代・属性

事故の被害者の年代は、中学生・高校生が11件と最も高い割合を示しています。また、被害にあった者は、ほとんどが選手・競技者（29件）ですが、中には観客や指導者が被害に遭うケースも含まれています。



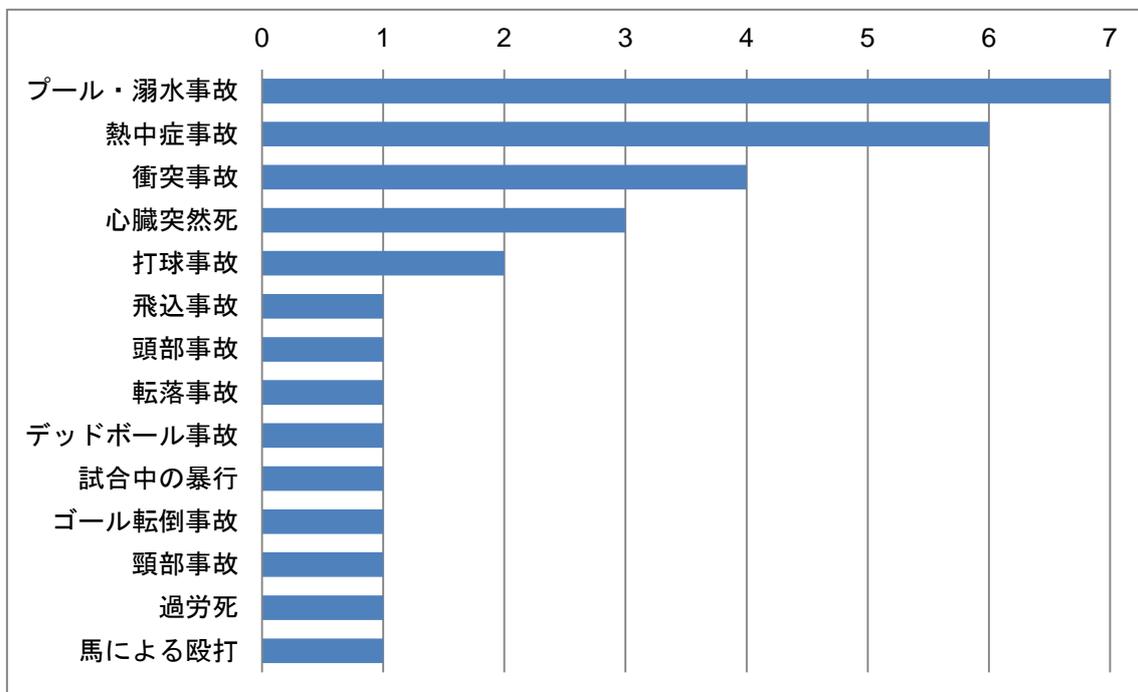
3. 被害状況

被害状況は、死亡事故が13件と最も多く起きています。また、2018年の夏は、非常に気温が高く、スポーツ中・観戦中の熱中症が多く発生し、社会的にも大きく報道されました。脊髄損傷（2件）、上肢切断（1件）という重篤な後遺障害を負う事例も生じています。



4. 事故態様

事故態様は、プール・溺水事故が7件と最も多く発生しており、うち5件が死亡につながっています。また、熱中症事故（6件）、衝突事故（4件）、心臓突然死（3件）は、特定の競技にかかわらず、横断的に発生していました。



5. 考察

日本では、競技を問わず、スポーツ中の事故が発生していることがわかります【事故発生競技】。また、スポーツ活動は、その性質としてある程度の危険を伴うため、スポーツ中に事故が発生した場合は、死亡や後遺障害といった重篤な結果が生じていることがわかります【被害状況】

こうした事故に遭っている者は、プロや社会人といった高いレベルでスポーツを行うものに限らず、むしろ、中高生や小学生・大学生といった周りが保護すべき年代でも多くの事故に遭っていることがわかります【年代別・続性別】。

他方で、事故態様を見てみると、多くの事故が発生しているプール・溺水事故（7件）、熱中症事故（6件）、心臓突然死（3件）はもちろんのこと、打球事故（2件）・デッドボール事故（1件）、飛込事故（1件）、頭部事故（1件）、頸部事故（1件）、ゴール転倒事故（1件）などは、すべて日本では古くからスポーツ事故の事故態様として挙げられているものです。こうした典型的な事故態様であっても、日本では、スポーツ事故を完全に防止できていないこともわかりました。

楽しんで行うスポーツの中で、悲しいスポーツ事故が生じないように、こうした事故態様・事故原因を分析し、事故予防に努めることが重要だと思います。

発行者 一般社団法人 ATHLETE SAVE JAPAN

2018 Case (事件事例) 一覧表

ケース番号	競技	年代	属性	被害状況	事故態様
18-001	不明	中学生	選手・競技者	傷害	ゴール転倒事故
18-002	不明	小学生	選手・競技者	死亡	心臓突然死
18-003	サッカー	プロ	選手・競技者	死亡	心臓突然死
18-004	バスケットボール	プロ	選手・競技者	死亡	心臓突然死
18-005	スキー	小学生	選手・競技者	死亡	衝突事故
18-006	水泳	中高生	選手・競技者	不明	飛込事故
18-007	ゴルフ	社会人	選手・競技者	死亡	転落事故
18-008	マラソン	社会人	選手・競技者	熱中症	熱中症事故
18-009	自転車	社会人	選手・競技者	顔面骨折	衝突事故
18-010	水泳	乳幼児	選手・競技者	死亡	プール・溺水事故
18-011	アメリカンフットボール	大学生	選手・競技者	不明	暴行
18-012	ラグビー	中高生	選手・競技者	死亡	頭部事故
18-013	レスリング	中高生	選手・競技者	脊髄損傷	頸部事故
18-014	不明	中高生	選手・競技者	熱中症	熱中症事故
18-015	野球	プロ	選手・競技者	傷害	打球事故
18-016	野球	プロ	選手・競技者	傷害	打球事故
18-017	自転車	社会人	選手・競技者	脊髄損傷	衝突事故
18-018	水泳	中高生	選手・競技者	死亡	プール・溺水事故
18-019	不明	社会人	指導者	死亡	過労死
18-020	ソフトテニス	中高生	選手・競技者	熱中症	熱中症事故
18-021	陸上	中高生	選手・競技者	熱中症	熱中症事故
18-022	野球	中高生	観客	熱中症	熱中症事故
18-023	ソフトボール	中高生	選手・競技者	熱中症	熱中症事故
18-024	シュノーケル	社会人	選手・競技者	死亡	プール・溺水事故
18-025	シュノーケル	社会人	選手・競技者	死亡	プール・溺水事故
18-026	シュノーケル	社会人	選手・競技者	死亡	プール・溺水事故
18-027	水泳	小学生	選手・競技者	意識不明	プール・溺水事故
18-028	水上ボート	社会人	選手・競技者	上肢切断	衝突事故
18-029	水泳	小学生	選手・競技者	意識不明	プール・溺水事故
18-030	野球	中高生	選手・競技者	死亡	デッドボール事故
18-031	馬術	大学生	選手・競技者	不明	馬による殴打

ASJ アクシデントレポート vol.2018-3

～事故予防編～

一般社団法人 ATHLETE SAVE JAPAN (ASJ) では、今年1月下旬から、報道の中から、スポーツ中の事故予防に役立つ取り組みを見つけ、ASJ アクシデントケースに集約してきました。

ASJ が見つけた報道がすべてというわけではありませんが、2018年に行われた事故予防のための取り組みを紹介します。

1. スポーツ事故予防の理念・ガイドライン

- 公益財団法人日本ユニセフ協会、[子どもの権利とスポーツの原則](#)
- 公益財団法人日本スポーツ仲裁機構、[スポーツ事故の予防と競技団体のコンプライアンス](#)
- スポーツ庁、[大学部活動における安全の確保等について](#)
- [関東学生アメリカンフットボール共同宣言 2018](#)
- カナダスポーツ仲裁機構 (SDRCC)、[スポーツにおけるハラスメントフリーの環境に向けて](#) (Toward an Abuse-Free Environment in Sport)
- 栃木県高体連、事故防止マニュアルの配布 (下野新聞、[栃木県高体連、完成マニュアルを配布 35 専門部、事故防止を徹底へ](#))

2. 事故事例の調査

- 独立行政法人日本スポーツ振興センター、[熱中症事故の調査](#)
- 田中有、[子どもの事故をどう防ぐ——「死亡事例のデータ化」実現に向けて](#)

3. 個別の事故の防止の例

(1) 飛込事故の防止

- 東京都教育委員会、飛び込みの禁止（内田良、[高校の水泳事業 飛び込みスタート禁止に](#)）

(2) 水泳事故

- スポーツ庁、[水泳等の事故防止について](#)

(3) 陸上女子選手に対する鉄剤注射の禁止

- 日本陸上競技連盟（読売新聞、[使用が後絶ため鉄剤注射、「治療名目」も禁止へ](#)）

(4) 脳震とう予防

- 公益財団法人日本サッカー協会、[サッカーにおける脳振盪に対する指針](#)
- DONNA SPENCER、[National concussion guidelines largely adopted by Canadian sports](#)（参考訳：「カナダのスポーツ大部分の団体が、国が定めた脳震とうガイドラインを採用している」）

(5) 心臓突然死の防止

- 自転車競技の心臓検査の実施

4. シンポジウム・講習会

- 日本スポーツ法支援・研究センターなど、シンポジウム「これで防げる野球練習中の事故」（朝日新聞、[野球練習中の事故で裁判「外出もつらかった」 大越監督](#)）
- 日本スポーツ法支援・研究センターなど、シンポジウム「[繰り返されるプール事故から子どもを守る](#)」（山中龍宏、[【報告】監視の限界を科学的に明らかにしたシンポジウム「繰り返されるプール事故から子どもを守る」](#)）
- 公益財団法人日本サッカー協会、[救命講習会の実施](#)

5. 救出・取り組み事例

- 体育の授業中に、倒れて意識を失った生徒に対し、AED の使用を開始した結果、救急隊が駆けつける前に呼吸と心拍数が戻り、一つの命が救われた事例(2018年3月)
- 陸上競技大会に参加し心肺停止状態になった男性を、現場にいた6人の方が救命措置を施し、人命を助けた事例（沖縄タイムズ、[陸上大会で心肺停止…その場にいた6人で救命リレー 助かったと知り涙ぐむ](#)
- 姫路城マラソンのレース中に心肺停止状態で倒れた男性が AED と二人の男性の勇気によって救われた事例（神戸新聞 NEXT、[倒れたランナー蘇生、関東の2人表彰 2月の姫路城マラソン](#)）
- 東海社会人サッカー、猛暑のため試合の中止
- 高校野球・滋賀大会、猛暑のため試合日程の変更

以上

発行者：一般社団法人 ATHLETE SAVE JAPAN